

上条

報告

第15号

平成22年8月

甲州市教育委員会
☎32-5097

全国伝統的建造物群保存地区協議会

関東甲信越静ブロック会議・担当者研修会について

平成二十二年七月十五・十六日の両日、「全国伝統的建造物群保存地区協議会・関東甲信越静ブロック会議」が、長野県南木曾町で開催されました。南木曾町は長野県の南部、岐阜県との県境に位置し、重要伝統的建造物群保存地区の「妻籠宿」が所在します。妻籠宿は、第一期である昭和五十一年に重伝建に指定されました。

ブロック会議は、ブロック内の伝建協加盟市町村（茨城県桜川市「真壁」・群馬県中之条町「六合赤岩」・埼玉県川越市「川越」・千葉県香取市「佐原」・新潟県佐渡市「宿根木」・山梨県早川町「赤沢」・長野県東御市「海野宿」・同塩尻市「奈良井」・木曾平沢「青鬼」・同南木曾町「妻籠宿」）十一地区十市町村と、伝建地区を目指した取り組みを行っている市町村で構成され、甲州市は昨年度から参加しています。

十五日は、前日までの大雨で電車が大幅に遅れ、午後からの会議にも影響が出ましたが、八県十六市町村二十九名の参加がありました。文化庁からも二名参加されています。

会議と事務研修を行った後は妻籠宿の見学ですが、夕立のためしばらく会場に足止めされ、夕方四時ころからの見学となりました。



あいさつをする文化庁・下間調査官。以前甘草屋敷の修理でもお世話になりました。

「こわさない」の三原則に基づき、活動されてきた団体です。保存地区内の建物の現状変更や修景については、まずこの「愛する会」で受付・協議を行います。南木曾町のご厚意により、重要文化財脇本陣奥谷を見学させていただきました。



脇本陣奥谷は代々脇本陣と問屋を勤めていました。現在の建物は明治十年の建築で、それまで禁制だった木曾檜をふんだんに使った贅沢なつくりです。いろいろには常に火が焚かれ、全ての柱が黒光りしており、管理のよさがわかります。



「愛する会」のメンバーが常駐しており、丁寧な説明をいただきました。

再び中山道に沿って町並みを歩きます。妻籠宿の建物は、以前研修にも行きました奈良井と同じような「出梁造」という形式ですが、奈良井は隣家と壁を共有するほど隙間なく建てられているのに対し、妻籠宿の建物は、それなりに隣家との境界がはっきりとしており、あまり窮屈感はありません。

心配した夕立も見学中は降らず、十分な見学ができました。その後南木曾町で用意してくれたバスで宿舍に移動しましたが、その夜は一晚中雷と大雨で、明日無事に帰れるかどうか心配になるほどでした。

明けて十六日、昨夜の雷雨がうそのように晴れ上がり、梅雨明けを思わせる天気となりました。妻籠から飯田市へ抜ける路上にある「木地師の里」で、伝統工芸品である木曾漆器を見学したあと、「馬籠宿」へ向かいましました。馬籠宿は岐阜県中津川市にあります。平成の大合併以前は長野県山口村でした。全国で唯一の「越境合併」として、大きく報道されたこともあります。

馬籠宿は伝統的建造物群保存地区ではありませんが、旧中山道沿いの宿場として古くから町並み景観の保全に努めてきました。その結果、個々の建造物は統一感がなくなってしまうものの、往時の街道を彷彿とさせる風景がよみがえり、多くの観光客を集めるに至りました。最近では海外からの客が多いそうで、この日も家族連れやカップルなど、十数人の欧米人を見ました。

彼らは馬籠宿から妻籠宿まで、整備された旧中山道を歩き旅行をすることで、江戸時代の体験をしているように思われました。馬籠も妻籠も、純日本の原風景が残されている場所として、欧米をはじめ海外に広く知られていることがわかります。一方日本人をはじめアジアの人は、あくまで観光地としてみているため、宿の中には人があふれていますが、中山道を歩く人はいません。



馬籠宿の見学の後、妻籠宿へ戻りますが、途中の馬籠峠でバスを降り、旧中山道の一部を実際に歩きました。道路に接続する旧道部分は数十メートルにわたり石舗装されていますが、大半は砂利を敷いた歩道です。昨夜まで大雨が続いていたはずですが、歩道に水があふれた形跡がなく、脇を流れる沢も増水していません。治山・治水が行き届いていることを実感しました。



しばらく進むと、一石枒という開けた地に出ます。ここには「白木改番所」が置かれ、木曾檜の小枝にまで搬出を認めた焼印が押されているかを厳重に見張っていたそうです。また、往時は七軒ほどの民家がありました。現在は一軒のみ残され、茶屋として活用されています。江戸時代後期の民家で、当初は間口十間半もある大きなものですが、現在は八間に切り詰められています。

やはり「愛する会」の方が常駐し、湯茶の接待をしていました。



研修も終わりに近づき、最後の視察は木曾川水系の発電事業にかかる近代化遺産群で、まず「桃介橋」を見ました。桃介橋は木曾川水系の発電事業を進めた福沢桃介に由来します。読書

発電所建設に伴う資材の運搬用に架けられた吊橋で、全長二四七メートルもあります。資材運搬用ですから、この橋にトロツコが走っていました。桃介橋は大正十一年に、読書発電所は翌年に完成し、現在はその他の施設も含めて、国の重要文化財に指定されています。

近くに建てられている福沢桃介記念館は、当時の桃介の別荘として建てられた西洋建築です。桃介はバーナーである川上貞奴（日本で最初の女優）とともに、避暑のため、また、発電事業の基地として、ここに長期逗留していたそうです。左の写真は二階の一室ですが、和室ながら床近くまで延ばした縦長の窓が、洋風らしい新鮮な内観を引き締めています。



来年度は、千葉県香取市・佐原で開催される予定です。

